

# フレンズだより



がんばる帰国生シリーズ

「世界へ翔け！～ダイバーシティを生き抜く力～」より

Preschoolの展示。髪、肌、眼の色もさまざま。地元の小学校には当時48カ国の子供が在籍していました

## CONTENTS

- P2-3 寄稿 傾聴の力「話す」がもたらす効用と「聴く」から得られる学び A.O
- P4-5 がんばる帰国生シリーズ「世界へはばたけ！～ダイバーシティを生き抜く力～」 M.A
- P6-7 海外レポート No.43「世界のトイレ事情」
- P8-10 学校案内制作現場から 第1回「国立校～帰国受検・編入・留意点～」
- P11 活動報告
- P12 学校案内／スタッフ募集／編集後記

## 「傾聴」の力

「話す」がもたらす効用と「聴く」から得られる学び フレンズスタッフ A.O



～はじめに～

NPO法人リスニングママ・プロジェクト（通称リスママ）は、子育て中のママに向けたサービス「おはなしDAY」を提供するNPO法人です。私のリスママとの出会いは娘が2歳の時でした。おしゃべりな娘の取り留めのない話に疲れ、イライラし、けれども大切に丁寧に聞いてあげたい、そんな葛藤の日々を送っていました。自分ではどうにも感情をコントロールすることが難しく、藁にもすがる思いで代表の高橋が開催する聴き方講座を受講。「聞く」と「聴く」は別ものであること、聴くことのパワー、話し手の気持ちの奥にあるものを眺めること、などを実践を交えて学び、それから「聴く」は私の生活の一部となりました。

受講から数年、アメリカに引っ越した私にリスママのリスナーになってみないかと声をかけていただきました。時差がある中で養成講座を受けその後レポートの提出や試験をクリアし、2017年春に無事デビューすることができました。「一人前の大人なのに、海外ではあまりに未熟で情けなさを覚える」そのような苦しさを感じた人は少なくないのではないのでしょうか。日本語で誰かの役に立つことができるリスママの活動は、海外生活の苦しさを支えてくれる柱となりました。こちらから差し出した20分が誰かの力になり、話し手からも力をもらえる。その強力なエンパワメントに何度もハッとしました。また、同じ想いを持った仲間たちとの日々のやりとりから、温かさや労りを送り合う事も癒しとなりました。ここにいけば誰かと優しいエネルギーの交流ができる、私にとってリスママはサードプレイスだったのです。また、時間と労力が金銭と交換される「労働」とは異なる喜びと満足感があることを知れたことも大きな学びでした。

日本帰国後は海外で受けた恩を返ししたいと考え、在日外国人へのボランティアを探していたところ、ひよんなことからフレンズ帰国生母の会を発見、現在に至ります。やれる人がやれる範囲の労力と時間を差し出すこと、そこに強制と不均衡な力関係が存在しないこと。個人の働きが尊く輝けること。労働の対価が、喜びと貢献感であること。

これらが、私にとってボランティア活動を続ける強い理由となっています。

リスママの活動は、フレンズ日より読者の皆様にも興味を持っていただけるのではと思います、フレンズスタッフの私が傾聴者（リスナー）であるお二人に話を伺いました。

**ま**：パートナーと小学生の3人暮らし。香港に5年半居住後、転勤先の宮城に移住。リスナー歴6年4ヶ月

**さ**：パートナーと子供ふたりの4人暮らし。アメリカ居住歴23年。現在ヒューストン在住。リスナー歴2年

**あ**（フレンズスタッフ）：ワシントン州シアトル居住11年。2023年3月帰国。リスナー歴7年

**あ**：リスニングママ・プロジェクトはこれまで3600件のママたちのお話を聴いてきました。Zoomを使って20分無料で共感的に傾聴してもらえるこのサービスは、日本国内はもちろんのこと世界中のママにご利用いただいています。本日は、海外でリスママに出会い、現在はサービス提供側として世界中のママたちのお話を聴いているお二人にお話を伺います。まずは、帯同のことや現地生活での苦労など教えていただけますか。

**ま**：私はパートナーの仕事で香港に5年半住んでいたのですが、言語も文化も全く異なる生活で、今振り返ると常に緊張状態にあったと思います。香港は広東語と英語を使うのですが、買い物や幼稚園の先生とのやりとりも本当に大変で。パートナーも赴任直後は激務でしたの

で、負担をかけたくない気持ちがあつて小さなことも相談できずとてもしんどかったです。

**さ**：私も言語でしょうか。23年も住んでいるので日常的に困ることはないのですが、病院や銀行、学校などでは大変だなと感じます。ちゃんと理解出来ていないと、家族にも大きな損害を与えてしまいますからね。

**あ**：はじめて「おはなしDAY」を利用した時のことを教えてください。

**ま**：直近にあった人間関係の話をしたのですが、全てが済んでしまった後だったので「こういうことがあつてこうなって、でも今はすっかりしています。」みたいな事後報告をした感じです。正直何のためにこの話をしてい

るのだろうと思って、すぐには2回目の利用にはつながりませんでした。ある日、息子のことを強く怒ってしまったことがあって。もう怒らないって決めたのにまた…ってひどく落ち込みました。その夜にふとおはなしDAYの事を思い出して予約ページをチェックしたらちょうど空きがあり、2度目の利用につながりました。その時に「聴いてもらうってスゴイ！」と感動し、その後コンスタントに利用させてもらいました。

**さ**：話すことで自分の中にあるモノを一度外に出し、整理できるなという感想を私は持ちました。その後定期的に聴いてもらったことで、「心の底にある、私が大切にしたい気持ちってなんだろう」というところにアクセスできた気がします。やはり1回では良さを実感してもらうのは難しいと思うので、ぜひ続けて利用してほしいですね。

**あ**：誰にも遮られずに話すことって日常的にほとんどない経験ですから、まずは20分、誰にも邪魔されない時間を感じて欲しいですね。数回使っていただくと、ジャッジやアドバイス一切なしで聴いてもらえることって、こんなにストレスがないのか、と実感してもらえます。

**あ**：海外在住者や帰国された方の利用に何か特徴はありますか？

**ま**：海外だと日本人同士の狭いコミュニティの中でのお付き合いになることが多いので、話す話題にも気を遣う場面も出てくると思います。そういった話や、日本人同士のお付き合いの中で自分らしさが発揮できない、という内容のお話を伺うことが多いです。

**さ**：おもいきり日本語が話したくて予約しました、という利用者さんもいました。それと、海外での暮らしの細かい前提を説明しなくてもいいから話が早い、と私をめぐって予約してくれる方もいます。顔も知らない匿名性の高いサービスだからこそ話せることってありますよね。

**あ**：これを読んでいる皆さんにコメントをお願いします。

**ま**：我が家のような転勤族の方って、それまで大切に築いた人間関係などを断ち切って別の土地に動かないといけない心の負担を抱えていると思うんです。引っ越しが

落ち着いて時間ができた時に、ぽっかりとした寂しさやせつなさが湧いてくると思いますので、痛みや寂しさ、残念さをなかつたことにしないで、ぜひ誰かに聴いてもらってほしいです。それと、転勤族の私にとってリスママはサードプレイスになっているので、たとえ住む場所が変わったとしても、変わらず取り組める役割や人との繋がりがあるといことは大きな意味があったなと感じています。リスママではリスナー養成講座や単発講座も開催しているので、みなさんと一緒に「聴くこと」を学びあえたら嬉しいです。

**さ**：ちょっと使ってみようかなという気楽な気持ちでアクセスしてもらえたら嬉しいです。コロナ禍でZoomでのやりとりが一般的になったことで、遠く離れていても簡単に繋がれる時代になりました。現在11名(2024年4月現在)のリスナーが在籍していて、国内外様々な土地に住んでいます。ご自分のフィーリングにマッチするリスナーを探す感覚で、何度も利用していただきたいですね。提供する20分は話し手さんのものですから。

## NPO 法人 リスニングママ・プロジェクト



情報はこちらから



おはなしDAYのご予約はお気軽に



### これまでにご利用いただいた国は14カ国

(インドネシア 中国 台湾 オーストラリア シンガポール マレーシア  
タイ アメリカ カナダ イギリス オーストリア ハンガリー フランス 日本)

0歳で渡米した長男が10歳を迎える頃、家族の事情で急遽日本へ帰国することが決まり、この先も永住と思って暮らしていた私達は、日本の教育について何も準備しておらず、引っ越し準備よりも先に、帰国を嫌がる長男の学校探しから始まりました。

10年ぶりの日本の生活、日本の学校への高学年からの編入で、彼にはどのような環境がフィットするのか、帰国への心配はそのことばかりでした。初めはインターへの入学を考えていました



米国で通っていたダイバーシティを謳った小学校

が、子供達のためにも、住まいを私の地元である湘南にしたいという主人の強い希望で、突然の電車通学を余儀なくされ、息子の希望は「家から歩いて通える英語の学校」であり、英語教育やプロジェクトベースの教育に力を入れた近所の私立小学校へ編入について問い合わせたところ、随時ではなく、年2回の編入試験のタイミングでないと受け入れ不可能と言われてしまいました。通える範囲の帰国子女受け入れ校も調べてみましたが、国際化を謳ってはいるのに、編入には該当学年相当のペーパー試験を日本語で受けられる能力が求められており、0歳から海外で過ごしてきた本来の国際人である彼を受け入れて貰えるのは、インター校しかないのだなとがっかりしたのを覚えています。通学範囲が決まっておらず、入学は不可能でしたが、国立の願書にふりがなが振ってあるのを見た時は、胸を撫で下ろす思いでした。

日本には『住民票を入れて2週間以内に入学』という義務教育の条件があり、「合わなかったらいつでも変えて良いよ」と、私立、インター、近所に新しく出来た英語のオルタナティブスクールなどの選択肢を隣に置きながら、学区の公立小学校に編入しました。近所といっても家から40分。重いランドセルを背負っての徒歩通学も心配しましたが、私の後ろに隠れながら初日を迎えた彼も、迎えに行く姿が見られず、既に近所のお友達を何人か見つけて、それからの毎日は登下校にプレイデートに、親

の心配とは裏腹に彼にとっての楽しい日々が始まりました。

クラスにもすっかり馴染み、2ヶ月後の私立の編入試験のタイミングの頃には、「この環境で充分」と話す彼の適応能力の高さをとても誇らしく思いました。担任の先生は自主性を重んじてくれる柔軟な方で、宿題もなし、提出物は英語でOK、漢字テストは写すだけで精一杯の気持ちを受け止めてくれ、解答用紙を写させてくれたり、いつも息子が出来る範囲のありのままを受け止めて下さいました。クラスの英語を話せる子からも多大なるサポートを受けながら、日本の学校＝宿題が大変な補習校であった彼の価値観を大きく裏切り、日本での小学校生活は、のびのびスタートを切ることが出来ました。試行錯誤の学校選びでしたが、結局は担任の先生とクラスメートによるところが大きいと身をもって実感しました。半年後の音楽会では実行委員として、流暢な日本語で、はじめの言葉やクラス紹介をする姿を見て、彼なりの居場所をちゃんと見つけられたこと、周りの方達に温かく迎え入れて貰えたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

5年生からはクラス運営として会社活動が取り入れられ、誰かを喜ばせることが大好きな彼は、お祭り会社の社長として、毎月日本の季節行事にちなんだクラスのお祭りを主催し、それを学校生活の生き甲斐としながら、準備と運営に全力を注いで、毎回「先生もお友達もみんな楽しんでくれて良かった！お祭り大成功！」と満足気に帰ってくる姿をとても微笑ましく思っています。裁縫クラブに所属し、大勢の女子の中でただ一人の男子として我が道をいく彼をとても誇りに思いながら、これからも変わらないでいて欲しいと願うばかりです。

地域的に中学受験をする率が高く、アメリカでの生活のように放課後お友達と遊んだりするのが難しくなるなど思っていたのですが、周りのお



友達は塾通いをすることもなく、毎日のようにプレイデートをして、ハロウィンやクリスマスにはパーティーを開き、夏休みは毎日海に通い、想像とは真

逆のとても自由な生活を送っています。

アメリカのようなプロジェクトベースの学習も彼は大好きだったので、世界から集まる日本の小学生と、「お仕事探求ラボ」というオンラインスクールに参加し、地域 PR の Movie を作成したり、商品開発をしたりと、小学生とは思えない貴重な経験をしました。元々アートが大好きだった彼は、子供の「やりたい」をはぐくみ、自由な遊びを大切にしてくれる物作りの場、「遊び塾」と呼ばれるアトリエにも通



っています。毎回素晴らしい作品を作り上げてくるのですが、時間の半分は古民家を自由に使い、広い庭を走りまわって、別の学年や学校のお友達と楽しい時間を過ごしています。夏にはみんなで川に

デイキャンプに行き、手作りの焚き火やターザンロープにブランコ、カニや蛙を捕まえて焼いて食べたり、大自然を遊び尽くせることも、我が家にはぴったりの環境です。家でもDIYにはまり、夏からどんどんとアスレチックが拡大化し、今では毎日何人も子供たちが遊びに来ています。また、アメリカでの授業の楽器選択でチェロを選択し、市内の小学校の弦楽器選択者を集めてのグループアンサンブルに参加していた彼は、日本でも中高生が主体となって運営する地域のジュニアオーケストラに所属し、普段関わることのない中高生との繋がりや、年齢に関係なく「皆一緒になって一つの曲やステージを作り上げる楽しさ」を引き続き感じながら、学校とはまた違った居場所を見出しているようです。

アメリカ生活は、家の裏には広大なフィールド、徒歩で行ける範囲のトレイルが幾つもあり、放課後や休みの日には野山を駆け回り、冬は近所の丘でスレディングやスキーを楽しみ、ファームで動物たちのお世話や野菜を育てたりするのが大好きだった彼が、日本ではまた違った海の生活にはまり、ライフセービングやセイリングを経験したり、夏は毎日のように大海原を泳ぎ、サーフィンをしたり、シーカヤックでダイブ、休みの日には新緑や春の花々、

紅葉に触れたり、山に遊びに行ったり、川でラフティングに挑戦したりと、また新たな自然を楽しんでいる様子にこちらもほっとしています。先取り教育が謳われている日本で、皆よりも進んで勉強ができる訳ではないし、まだまだサポートを受けながらの日々ですが、どんな環境でも、好奇心旺盛に新しい物事を積極的に受け入れ、感受性豊かに、困難を楽しむに変えながら乗り越えていく力は、幼少期に沢山踏みしめた大地や自然との営みの中で培われたものだと思信しています。

また、息子の学校には地域柄、国際結婚ファミリーや帰国子女のファミリーが多く、彼らを対象とした親の会があり、昨年からその代表を務めることになった私は、言語や文化的背景のみならず、様々な障害や、学校への不安を抱えた子どもたち、「みんな違ってみんな良い」という多様性を大事に、それぞれの持ち合わせた個性を大切にしながら、子供達の未来と一緒に考えていける誰でも Welcome な会にしたいと会の拡大と変革を行いました。全校生徒1600人のマンモス校に通う息子が多くの友人に恵まれ、自分を見失わずにいられる背景には、人種のるつぼであるアメリカで、宗教、人種関係なく、障害のある子、何かを苦手とする子、それぞれのペースで生きたいと願う子たちもみんな一緒に学び、生活をしてきた10年間、それがまた誰かを認められる力に大きく影響しているのだろうと思います。

様々なことに興味を持ち、他者を受け入れながら、自分のやりたいことを見つけ、実現していく彼の未来はきっと大丈夫。帰国となると、「英語をどうするか」ということに重きを置きがちですが、是非、それぞれの個性や人となりを見失わず、その子らしくのびのびいられる環境の中で、海外生活で確実に培われてきたアイデンティティを大切に、またこの大きな経験を優しさ強さに変えながら、より自分らしく輝けること、帰国生の皆さんがそれぞれのペースで世界へ羽ばたけることを心から願っています。



米国時代、ハイスクールでの招待コラボ演奏



壮大な凍った湖でのスケート



大好きだったファーム

映画『Perfect Days』では日本のトイレ清掃員の日常が描かれ話題になりました。また海外からの観光客の多くが日本の公衆トイレの清潔さやウォシュレットの存在に驚くという話を耳にします。そこで今回は「世界のトイレ事情」についてエピソードを集めてみました。

アジア・アフリカ編

【中国】

・昔のことですが、世界を旅してびっくりするトイレに遭遇したことがあります。中国武陵源に旅し、着いた空港の女子トイレ、入り口正面に対峙したトイレ、その他いくつかのトイレには扉がありませんでした。また、武陵源の観光地の公衆トイレは3メートル四方位のオープンスペースがあり、中央にある穴に向かってなだらかな傾斜になっていて、数人がしゃがみ、そこで一緒に用を足していました。

2024年、中国の最新の公衆トイレがニュースで紹介されました。顔認証でペーパーが一定の長さ出てくるそうです。しかし、その長さでは足りず同じ人が続けてペーパーを出すには10分間待たなければならないそうです。



・お手洗いにまつわるびっくりエピソードはすっかり有名な中国。現在は多くの場所で改善されており、ホテルやレストランでは清潔な水洗トイレが備わっています。しかし多くはいわゆる「和式スタイル」。しかも日本の和式トイレに比べて幅が若干狭いため、「失敗」せず用を足すのがちょっと難しいです。

・中国のトイレは原則、紙は備えられていないと考え、携帯ティッシュは欠かせません。そんな中、最近入ったレストランのトイレにはトイレットペーパーが！しかしなぜかトイレブースにはではなく、洗面台の横に設置されており、トイレに行く前に必要な量を取って入るスタイルでした。

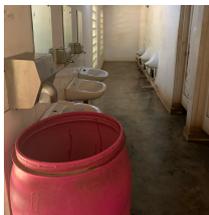


【モザンビーク】

街中のレストランで見かける男性用トイレ。仕切りがなく、ステンレスの板に向かって用を足し、定期的の上から板に沿って水が流れるシステム。コロナ禍に改修したところが多く、こちらは数少ない未だ残っているトイレの写真です。



公園のトイレ。一見見慣れた景色ですがよく見ると洗面台には蛇口がなく、横には大きな水瓶が。排水から手洗いまで全てをこの水で賄うスタイル。水栓に慣れている日本人には衛生面で少し抵抗を感じてしまいますね。



【インド】

インドのトイレはモールなどのトイレに入っても紙が備えてあるところは少なくハンドシャワーで洗い流すのが一般的です。紙を流してはいけないところが殆どなので、紙専用のゴミ箱が備え付けてあります。

インドのトイレは日本の和式風トイレが主流でした。この写真は正面に流すボタンがついていますが、一昔前までは水を手桶で汲んで流していました。

最近はホテルやショッピングモールや住まいでも洋式が一般的ですし、紙も備え付けあるところが増えました。こちらのハンドシャワーは勢いよく水が出てくるので注意が必要です。



和式タイプ

洋式タイプ

また街中のローカルマーケットや電車の駅、長距離バスの休憩所などでは有料トイレがあり使用前か後にお金を渡します。使用料は5ルピー(約9円)から10ルピー(約18円)です。

各国で使われているこの形は別名「トルコ式トイレ」とも言われ、ヨーロッパでもみられるそうです。

日本ではあまり見なくなってきた和式トイレですが、しゃがむタイプのトイレは現在も広くアジアの国々で使われているのですね！

【タイ】

(上) 田舎の高速道路に有るトイレ。横の水槽から水を汲んで流します。現地の人はお尻も洗うとか…最近高速のトイレも大分綺麗なトイレに入れ替わってきているそうです。



(下) 日本でもたまに見かけるこの表示。このマークがあったりするの、こういうスタイルのトイレに慣れている人が洋式トイレで誤ってその上に立って使用しないように！との注意らしいです。



【マレーシア】

清潔なトイレといえばイスラム教圏です。モスクのトイレはお清めの意味もあり、常に水で洗浄されていました。ビチョビチョなのが少し使いにくい印象ではありますが。常に神様が見ているという教義が人々の心の中にあるのかもしれません。



# 欧米編

## 【チェコ・プラハ】

プラハでいちばんの繁華街にあるヴァーツラフ広場に面した Mac Café は観光客が多く来店します。



有料トイレは地下にあり、コインを入れて入口のバーを開錠して入ります。



10czk(チェココルナ)のコインを入れると、青いランプが光り、出てきたチケットを受け取ってバーを回すと、階段を降りてトイレに行くことができます。(10czk=およそ65円) このトイレは掃除が行き届いており、日本のトイレと変わらないくらいきれいでした。



ファストフードのトイレは、このようにお金を払って入っても、時々裏切れることがあるので大きな期待をしない方がいいかなと思います。

## 【オランダ】

オランダのトイレで驚いたのはオランダ人は男女ともに背が高い為か、全体的に洋式便座が高めです。ある時、あまり綺麗でない公共のトイレに入った時のこと。オランダの一般的な便座よりさらに高い位置に便器が設置されており、その上便座が設置されていませんでした。座ることも、腰を浮かせて用を足すこともできず、使用を諦めざるを得ませんでした。

## 【フランス・パリ】

パリの公衆トイレ。そこは独立した1戸の建物がトイレになっていて、コインを入れるとドアが開き、入ると2畳ほどの広い所に和式風の便器と便器の両脇に板(下駄のように底上げされた)、手洗い用のボウルが設置してあります。用を済ませて水を流すと2畳の床全体に水が勢よく流れてきたのには驚きました。便器脇の板の上に立っていないと、靴がびしょびしょになる所でした。



## 【米国】

・ガソリンスタンド併設のコンビニのトイレ。さすがアメリカ、なんとこの広さ！この広さがあれば倉庫も兼ねたくなるのもわかる、と納得してしまいました。



・アメリカのトイレはやたら広いところが多いです。モールなどのトイレはいくつかのブースがあるので1つ1つが広くはないのですが、レストランなどで個室が1つしかないトイレなどは、やたらとスペースが広く、便座からドアまでが遠かったりします。そのため、ドアについているフックにバッグをかけてうっかり生理用ナプキンを取り出し忘れていたりするときは、手がとどかず慌てる羽目になります。

・なぜかよく詰まるアメリカのトイレ。各家庭に詰まり解消の「ポンプ」は欠かせません。



## 日本では

清潔だけでなく機能性もどんどん高まる日本のトイレ。サービスエリアで見かけるようになった「忘れ物防止トレイ」は、鍵部分がトレイになっており、携帯や財布などを置けます。これなら絶対置き忘れしないですね。



個室に入ると大きな板状のロックにびっくり



閉めるとそこが荷物置きに変身。傘置きもあって、絶対置き忘れしない工夫が詰まっています。



私たちが見慣れているトイレ内のベビーチェア。折りたためるタイプは海外ではほとんど見かけないと聞きます。またベビーチェアに座った子どもがドアのロックを開けないように、手が届きにくい上の方にもロックが付いていますね。立ち上がる時に掴む補助バーも多くのトイレに付いています。日本のトイレはさまざまな人が利用しやすいような心配りがされている上に、清掃の行き届いているところが多いので安心して利用できますね！

公衆トイレでもウォシュレットがついていたり、高機能なのはいいのですが、結果、ボタンがたくさんでどれを押せばいいか迷うケースも。最近は外国人の利用が増えてきたため、このように複数の言語で説明されているのをよく見かけるようになりました。

## 第1回 国立校 ～帰国受検・編入・留意点～

毎年9月発行の「学校案内」。その編集を通して見えてくる学校の傾向や特徴を分かりやすくまとめてお伝えするコーナー。記念すべき第1回は、国立校についてお伝えします。

2023年10月、『フレンズ 帰国生 母の会』は創設40周年を迎えました。『母親が歩いて見た帰国生のための学校案内』も今年第41版を発行します。40年の間、首都圏で帰国生を受け入れる学校は増加し、掲載許可をいただいている学校は小中高300校以上に上ります。帰国生の学校選びのために制作現場からお伝えしたいこと、お伝えできることをお届けします。今号では首都圏の国立校を紹介します。



## 国立校の受け入れ

日本への帰国後、入学或いは編入学する選択肢として先ず思い浮かぶのは私立校ではないでしょうか。国立校に帰国生受け入れ枠があることをご存じない方も多いと思います。国立校では海外で現地校やインター校といった日本の学習をあまり進めることができなかつた帰国生が日本の学校や生活にソフトランディングすること、またその研究を目的に受け入れ、2007年までの30年あまり帰国生だけの高校も設置されていました。近年では、日本で推し進められている国際バカロレア取得に沿ったプログラムを取り入れる教育へ変換する学校、受け入れ数や学年にも変化が見られるようになっていきます。

## 国立小学校



お茶の水女子大学附属小学校(東京)、東京学芸大学附属大泉小学校(東京)、横浜国立大学教育学部附属横浜小学校(神奈川)、千葉大学教育学部附属小学校(千葉)の4校が受け入れています。学習としての日本語の習得、未習部分の補完、日本の生活習慣への適応を目的としており、お茶の水附属小と千葉大附属小では基本的に日本人学校からの編入学は受け入れていません。ただ、帰国直前に日本人学校に通っていてもそれ以前の学習歴や生活などから日本への適応に不安がある場合には学校に受け入れていただける可能性もありますので、ご相談してみることをお勧めします。



受け入れ学年は、お茶の水附属小と千葉大附属小が4～6年生で帰国学級が設けられています。東京学芸大大泉小では1・2年生を一般学級で、3～6年生を国際学級で受け入れています。日本人学校からも受け入れています。家庭での言語環境が日本語ではないなど条件があります。また、十分に適応できるようになると、同校の一般学級や居住地の公立小に移るよう促されます。横浜国大附属横

浜小では、2023年度より募集学年と受け入れ数の変更を開始しました。これまで5～6年生だった受け入れを3年生からに変更、ただし2028年度3～6年生全学年の募集までは募集のない学年もありますので注意が必要です。日本人学校からの編入学も可能です。一般学級に入りますが、帰国児童が参加する国際教室が設置されています。

受け入れ数は学芸大大泉小が各学年若干名、ほか3校は学年別に15名、どの学校も定員に達している学年はない状況です。通学区域には指定があり、公共交通機関での通学にはなりますが、帰国児童をよく知り、受け入れ態勢が整っている学校です。居住地の公立小への編入学に不安がある場合には選択肢の一つとするとよいと思います。編入学対策へのご相談をいただくこともありますが、一般の入試とは異なり、よくできる帰国児童から合格とするわけではありません。海外ではでき得る日本の学習を進め、そのままの状況を見ていただいでください。

気を付けていただきたい点が2点あります。1点は英語など帰国児童に向けた語学の伸長教育は施されていないこと、もう1点は一般児童とは異なり基本的にその上の中学校へそのまま進学できないことです。ただし、外部からの児童と同じ入学検査を受けることは可能です。附属校が小中高と設置された学校では、私立大学附属校のようにそのまま大学まで行けると思われる方もいますが、小学校卒業までにその後の進路をどうするのか、早めに親子で検討し、準備することが必要です。

## 国立中学校



お茶の水女子大学附属中学校(東京)、東京学芸大学附属国際中等教育学学校(東京)、横浜国立大学附属横浜中学校(神奈川)、横浜国立大学附属鎌倉中学校(神奈川)、千葉大学教育学部附属中学校(千葉)、埼玉大学教育学部附属中学校(埼玉)の6校で受け入れています。お茶の水女子大附属中の1年生を除いて一般生と同じクラスになりますが、帰国生が集まる時間を設けて補完授業を実施したり、滞在国や異文化紹介をしたりなどの機会を設けています。帰国生の居場所があり、帰国生として発信や活躍の場も用意されています。

日本人学校からの受け入れも行っています。学習面ではそう困ることのない日本人学校からの帰国でも、子どもから大人への成長過程である中学生という難しい時期に異なる学校環境、友人関係になかなかうまく着地でき

ない帰国生もいます。入試のほか、欠員があれば編入学で受け入れる学校もありますので、特に帰国後の中学校生活に不安がある場合には選択肢の一つとされることをお勧めします。

各校 15 名程度の受け入れを行っていますが、東京学芸大学附属国際中等教育学校では入試時に一般生と同じ試験で 60 名募集します。その後毎年 4 月と 9 月に 2 回、帰国生のための編入学募集を行っており、1 年生から 6 年生まで毎年編入学する帰国生がいます。入試と編入学の外国語作文には、英語のほか、フランス語・ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国／朝鮮語が使用できます。入学後、日本語が苦手な帰国生にはサポートもあり、また全生徒が英語のイマージョン教育や国際バカロレアのプログラムに沿った学習を進めています。海外で培った語学力や発信力を伸ばしていきたい帰国生には適した学校の一つとなっています。

入試時、お茶の水女子大附属中では一般生とは異なる特別な指導の要・不要をみる検査を実施、千葉大附属中では日本語作文のみが課されます。ほかの学校では帰国生として別枠で合否を決めたり、科目が少なかったりするものの筆記検査は一般生と同じです。東京学芸大国際中等教育では、外国語型、日本語型のどちらかを選んで検査に臨めますが、外国語型にも日本語作文が課されます。また、双方に決められたテーマについてのグループディスカッションがあります。各校の検査内容にあわせて準備を進めてください。

東京学芸大国際中等教育の通学区域は通学可能区域として特に定められていませんが、他の学校では定められています。お茶の水女子大附属中では帰国生としての入学生には附属高校への連絡進学はできません。望む場合には一般受検することになります。そのほかの学校には高校がないため、外部の高校を受験することになります。

## 国立高等学校



東京学芸大学附属高校(東京)、筑波大学附属高校(東京)、筑波大学附属駒場高校(東京)、筑波大学附属坂戸高校(埼玉)の 4 校と東京学芸大学附属国際中等教育学校が編入学を行なっています。小中学校のように日本の学習や学校生活への適応を目的とした受け入れではなく、入試の際帰国生枠を設けて受け入れる体制で、入学後は一般生と同じクラスに入ります。

東京学芸大附属高の入試は、一般生の 5 教科に対し、帰国生は 3 教科で 15 名の別枠を設けています。入学後、1 年生の間は定期考査前に帰国生が苦手とする教科のサ

ポートタイムがあります。筑波大附属高では、日本人学校、現地校それぞれ 3 名の帰国生だったのですが、2021 年度より、あわせて 3 名に減少となりました。入試科目、内容とも一般生と同じです。筑波大附属駒場高は一般生の募集数 40 名に帰国生も含まれており、調査書を選考に含めないものの入試科目、内容とも一般生と同じです。また、同校のみ通学区域が定められています。筑波大附属両校、国・数・英・社・理の 5 科目が課されることに起因するか、ここ数年、帰国生の受検者数、合格者数が減少しています。入学後、特別なサポートの体制はありません。

筑波大附属坂戸高では SG(スーパーグローバル)クラスと IB(インターナショナルバカロレア)クラスで受け入れています。入試は、入学後に希望するクラスや第一志望として校長推薦が得られるかなどによって選考内容が異なります。筆記検査が課されるのは SG の数・英・小論文のみ、校長推薦の SG と IB は書類選考となります。事前に出願資格確認申請日が設けられています。入学後はグローバル教育と語学運用の時間数が多く、日本語支援が必要な生徒には取り出し授業が行われます。また、近隣の学生会館を寮としており、帰任時期がはっきりせず、日本の高校への進学に悩んでいる場合には選択肢の一つになるのではないのでしょうか。

4 月入学の高校入試に臨むにはその前の 3 月には中学校卒業見込み或いは 9 年生修了資格が必要です。海外の学校年度終了時期は日本と異なりますので、学年を一つ落とす、または中 3 までに日本の学校や日本人学校に編入学して卒業資格を得るなど予めお子様の気持ちを踏まえてよく話し合ってください。特に国立高校では受検資格が細かく定められていますので、詳細をご確認ください。

東京学芸大国際中等教育では前述のとおり、高 3 にあたる 6 年生の 4 月(検査は 2 月)まで編入学を受け入れません。東京学芸大附属高では欠員が出た場合、筑波大附属坂戸高では SG と IB の欠員が 1 年生 3 月にある場合のみ編入学検査を実施しますが、筑波大附属高と筑波大附属駒場高の編入学の受け入れはありません。

## 国立工業高等専門学校



高 1 から 5 年間本科で学び、さらに 2 年の専攻科が設置された学校です。本科卒業後に大学 3 年に編入学、または専攻科修了後に大学院に進学などの進路を選ぶことができます。首都圏では、木更津工業高専(千葉)、茨城工業高専、小山工業高専(栃木)、群馬工業高専の 4 校が帰国生を受け入れています。いずれも一般生と同じ国・数・英・

理の4科目が課されますが、選考は別枠で行います。さまざまな工学科が設置され、工学系に興味のある帰国生にとって魅力のある学校の一つですが、帰国生に向けたサポートはありません。また、編入学も実施していません。各校とも寮が設置されていることも特徴の一つです。どの学校も100名以上、多い学校では300名強の生徒が寮生活を送っています。



義務教育期間である小中学校では日本の学校生活や教育への適応、高校では入試時に帰国枠を設けることが国立校の受け入れ体制となっています。国内の転校であっても新たな環境になじむにはお子様それぞれの時間が掛かります。現地校やインター校出身の帰国生にとって、授業の進め方、やったことのない学習、1日の過ごし方など未知の体験ばかりです。お子様の性格や学習面での日本語力にもよりますが、学年が低ければ適応する時間は短く、小学校高学年や中学生での帰国は適応に時間が掛かる場合もあります。日本人学校からの帰国でも友人関係

を構築するまでには時間を要します。帰国生の適応課程やその対応に慣れている環境、帰国生の特徴をよくわかっている先生方が在職している国立小中学校では、不安要素が軽減されるのではないかと思います。無事に着地できた後には、お子様の希望する、お子様に合った中・高等学校に入学し、楽しい学校生活を送ってくださることを願っています。

帰国生を受け入れる首都圏の国立高校は入学検査のレベルが高く、入学後もその難関を突破した生徒たちの学習意欲に合わせた授業が進められます。そうした環境の中で学習を進めたい帰国生にも入学のチャンスが与えられています。日本では入試に合格しない限り高校への進学はできませんので、海外にいても早めに帰国後の学校を調べて希望する学校の試験対策を進めてください。

次回は都立、県立など公立校の受け入れについて紹介します。

### 国立校 まとめ

	学校名	受け入れ学年	留意点
小学校	お茶の水女子大学附属小学校	4～6年（日本人学校は対象外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属の中学には進学できない</li> <li>・英語を伸ばさせるための授業は行なっていない</li> </ul>
	東京学芸大学附属大泉小学校	1・2年 一般学級 3～6年 国際学級	
	横浜国立大学教育学部附属横浜小学校	3～6年（募集しない学年もあり）	
	千葉大学教育学部附属小学校	4～6年（日本人学校は対象外）	
中学校	お茶の水女子大学附属中学	1年次 15名	附属高校への連絡進学できない （一般受検することは可能）
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	1年次 60名、以降6年まで 毎4,9月編入学試験あり	通学可能区域の指定なし
	横浜国立大学附属横浜中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次 15名</li> <li>・定員未達の場合編入学あり</li> </ul>	附属高校無し
	横浜国立大学附属鎌倉中学校		
	千葉大学教育学部附属中学校		
埼玉大学教育学部附属中学校			
高等学校	東京学芸大学附属高校	1年次 15名	
	筑波大学附属高校	1年次 3名	
	筑波大学附属駒場高校	一般生募集に含まれる	
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	編入学のみ	
	筑波大学附属坂戸高校	1年次若干名	
高専	木更津工業高専	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験は一般と同じだが可否は別枠で判定</li> <li>・編入学はない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰国生向けサポートはない</li> <li>・寮がある</li> </ul>
	茨城工業高専		
	小山工業高専		
	群馬工業高専		

## 2023 年度活動報告 (2023/4/4~2024/3/31)

### 1. 海外赴任に関する相談、問い合わせ

① 電話による相談：12 件 ② メールによる相談：21 件 ③ 面談による相談：6 件

### 2. 賛助企業依頼による海外赴任前セミナー

① 個別面談 (Web・対面) 67 件 ② 個別相談 (メール) 1 件 ③ 講義 (Web) 1 件

### 3. 『母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 2024—首都圏版 中学・高校編』2023 年 9 月発行

取り上げた小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・高等専門学校：約 320 校 発行部数 800 部

### 4. 機関誌『フレンズだより』 80 号 (6 月発行)、81 号「40 周年記念号」(12 月発行) 各 1500 部

主な配布先：賛助企業、文部科学省、公益財団法人海外子女教育振興財団、海外全日制日本人学校/補習授業校、首都圏の小中学校・高等学校、教育関係機関、諸団体、国内・海外定期購読者、来訪者 他

### 5. 勉強会

・海外子女教育専門相談員連絡協議会定例会及びWEB相談員連絡会 参加・報告

### 6. 対外活動

・海外子女教育専門相談員連絡協議会にメンバーとして参加

・文部科学省「在外教育施設派遣教師研修会」にて講義 (Web)「保護者の期待する日本人学校・補習授業校」

・賛助企業依頼による海外赴任前セミナー (主に Web)

・寄稿：『海外赴任ガイド』『母たちの海外体験談』他 (株式会社 JCM 発行)、

『月刊グローバル経営』『特集 海外で子育て』(一般社団法人日本在外企業協会発行)、

『週刊NY生活』『教育なんでも相談室』(ニューヨーク生活プレス社発行)、

『帰国便利帳』(Y's Publishing Co., Inc. 発行) 他

・協力：公益財団法人海外子女教育振興財団 帰国生のための学校説明会参加 (WEB 開催)

### 7. 来訪、お問い合わせ、取材を受けた団体・企業・学校 (順不同)

公益財団法人海外子女教育振興財団、株式会社 JCM、株式会社早稲田アカデミー、

ワイズ・パブリッシング・ジャパン株式会社、株式会社アイウェア (JOBA)、一般社団法人日本在外企業協会、

グローバル化社会の教育研究会 (EGS)、NPO 法人海外安全・危機管理の会、ニューヨーク生活プレス社、

武蔵大学国際教養学部学生、リトルインディアン文庫 他

### 8. 『母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 2023』にご協力いただいた団体・企業 (順不同)

公益財団法人海外子女教育振興財団、プチポア (ベルギー)、タイランドハイパーリンクス、

Mix B (12 都市)、ニューヨーク生活プレス社、株式会社 JCM、Y's Publishing Co., Inc.

### 2023 年度賛助企業 (順不同)

東京海上日動火災保険株式会社、本田技研工業株式会社、株式会社ブリヂストン、

株式会社 JCM、花王株式会社、日清食品ホールディングス株式会社、日本製鉄株式会社、

株式会社早稲田アカデミー、株式会社リロケーション・インターナショナル、日本たばこ産業株式会社

### 2023 年度機関誌『フレンズだより』広告掲載企業 (順不同)

株式会社 JCM

### 『母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 2024』広告掲載団体・企業・学校 (順不同)

株式会社 早稲田アカデミー、公益財団法人 海外子女教育振興財団、KA INTERNATIONAL 株式会社、

株式会社 日本入試センター (SAPIX)、国際基督教大学高等学校、成蹊学園 成蹊中学校・高等学校、

東京都市大学附属中学校・高等学校、富士見丘中学高等学校、大妻中野中学校・高等学校、海城中学高等学校、

サンモールインターナショナルスクール、聖心女子学院中等科・高等科、聖園女学院中学校・高等学校

皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。

## フレンズ掲示板

### 母親が歩いて見た 帰国生のための学校案内 2025



首都圏版 中学・高校編  
価格 国内:3,740 円(税・送料込)  
海外:3,400 円(送料別)



2024 年 9 月 18 日発行 HPにて予約受付中

Amazon、一部の書店でもご購入可能です。

インスタ始めました！フォロー、  
共有よろしくお願いします。

ID : friends\_kikokusei\_hahanokai



### スタッフ募集中！

ご希望の曜日に週 1 回、銀座のオフィスで一緒に活動して下さる仲間を募集しています。  
活動時間: 月～金 10:30～16:30 ご都合に合わせて、在宅ワークと組み合わせての活動も可能です。

#### 【主な活動内容】

- ①年に一度発行「帰国生のための学校案内」制作。学校訪問&訪問記の執筆。
- ②協力企業・団体の依頼によりエピソードや体験談を執筆。
- ③赴任前、帰国後相談(主に Zoom オンラインにて実施)。

\* 交通費実費支給

\* ③を中心にご協力いただくネットワーク会員も同時募集！(登録制。不定期の活動)



↑↑↑  
お申込み、お問い合わせ  
はこちらから

### 編集後記

フレンズ創立 40 周年を機に、フレンズだよりも今号から少しリニューアルしました。

新たに登場したのは「学校案内制作現場から」。「学校案内」の編集長は制作段階で 300 校近い学校の情報に目を通し、秋には帰国生の受け入れ人数等を基に新たに取材に行く学校を選定するなど、首都圏の帰国生受け入れ校の情報に多く触れています。その経験から得た知見を共有する場として「フレンズだより」で連載することになりました。帰国生入試の傾向や特徴を知る一助になればと思います。

時代の変化に伴い、帰国生入試や受け入れ校の取り組みも年々変わってきているように感じます。そういった情報を発信できるよう、今後も努めて参ります。

発行/フレンズ 帰国生 母の会

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-3-16 日動火災・熊本県共同ビル 8 階

TEL 03 (6633) 4096 FAX 03 (3573) 1217 Email:fkikoku@gaea.ocn.ne.jp